

Europe Indicators

発表日: 2020年8月12日(水)

欧州経済指標コメント: 4-6月期英国GDP速報

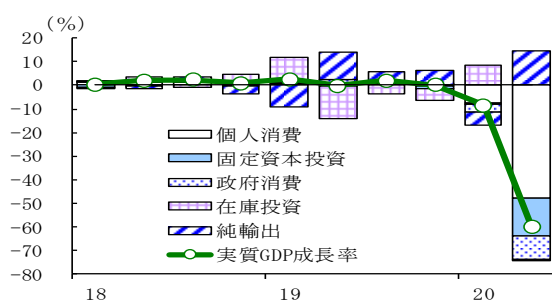
～都市封鎖の遅れで主要国で最大の落ち込み～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

首席エコノミスト 田中 理 (TEL: 03-5221-4527)

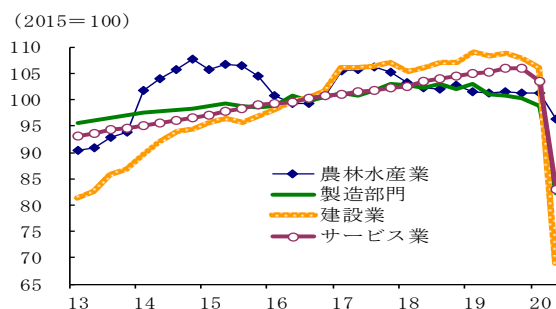
- 4-6月期の英国の実質GDP成長率の速報値は前期比▲20.4%、同年率▲59.8%と1955年の現行統計開始以来で最大の落ち込みを記録した。既報のユーロ圏主要国よりも大幅な落ち込みとなったのは、英国が全面的な経済活動停止に舵を切ったのが遅く、1-3月期の落ち込みが比較的マイルドだったことも影響。同時に発表された月次GDPは、3月に前月比▲6.9%、4月は同▲20.1%とさらに大きく落ち込んだ後、5月は同+2.4%、6月は同+8.6%と2ヵ月連続で増加している。前四半期の最終月と今四半期の初めの月が揃って大幅な落ち込みとなったことで、4-6月期の成長率は大きなマイナスのゲタを履いていた。5・6月の持ち直し後も、月次GDPの水準はコロナ危機前の2月対比で▲17.3%にとどまる。
- こうした月毎の推移は業種別にも当てはまる。落ち込みの程度は異なるが、製造部門、サービス部門、建設業、農林水産漁業の4分類に加えて、製造・サービス両部門の細分化した業種分類の多くも、3月にマイナス成長、4月に下落幅が大きく拡大、5月以降は持ち直している。
- 四半期計数の需要項目別内訳は、コロナ危機対策を反映して政府投資（前期比+11.4%）が増加したものの、個人消費（同▲23.1%）、政府消費（同▲14.0%）、企業設備投資（同▲31.4%）、住宅投資（同▲33.7%）、輸出（同▲11.3%）、輸入（同▲23.4%）が揃って大幅な落ち込みとなった。輸入が輸出の落ち込みを上回ったため、外需の寄与度は同+3.4%ポイント。

■英国：実質GDP成長率（前期比年率、%）



出所：英統計局

■英国：業種別GDP



出所：英統計局

■英国GDP（前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>）

	名目GDP	実質GDP	内需				外需			
			個人消費	政府支出	固定資本投資	在庫	輸出	輸入		
18/7-9月期	4.6	2.4	(0.6)	1.7	2.4	1.3	(▲4.8)	(1.7)	9.6	3.3
18/10-12月期	1.6	0.9	(4.7)	0.6	5.3	▲0.5	(▲0.7)	(▲3.8)	▲1.1	12.2
19/1-3月期	5.4	2.7	(12.1)	0.8	2.1	4.8	(4.3)	(▲9.4)	7.8	44.0
19/4-6月期	1.9	▲0.2	(▲12.1)	1.4	7.5	▲2.5	(▲18.5)	(11.9)	▲9.9	▲36.1
19/7-9月期	4.1	2.1	(▲2.6)	0.6	0.8	2.3	(▲6.3)	(4.6)	26.6	8.7
19/10-12月期	0.4	▲0.0	(▲5.8)	▲0.4	2.2	▲5.6	(▲2.1)	(5.8)	19.0	▲0.5
20/1-3月期	▲4.9	▲8.5	(▲2.9)	▲11.2	▲15.5	▲4.3	(28.1)	(▲5.6)	▲43.9	▲32.7
20/4-6月期	▲48.9	▲59.8	(▲74.5)	▲65.1	▲45.3	▲69.2	(105.1)	(14.7)	▲38.1	▲65.5

出所：英統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

